

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193700051		
法人名	医療法人交雄会		
事業所名	グループホーム桜香(つつじ)		
所在地	北海道伊達市館山町36番地5		
自己評価作成日	平成28年 2月11日	評価結果市町村受理日	平成28年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0193700051-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

つつじユニットでは明るい環境を目指し、笑いの絶えない雰囲気作りを念頭に置き、穏やかな生活をして頂く様、常に一人ひとりに合った声掛け、その方に応じた支援対応を心掛けながら、行事等を通じて入居者様に季節を感じて頂けるよう、また、平均年齢が高いため訪問看護師と連携をとり健康維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に桜香独自の基本理念とケア理念を作り、ホーム内に掲示している。ほぼ毎朝申し送り後にその日の勤務者と明け職員で理念を唱和し意識付けをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入している、3ヶ月毎の自治会の廃品回収にお手伝いとして1名参加している。 平成27年9月には敷地内で「桜香祭り」を開催し地域の方々にも案内状を配布することで参加して頂き一緒に楽しみました。また、自治会内にある伊達神社の祭りや大型店舗に入居者と出掛け知り合いと挨拶されることがあった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がホーム見学時に認知症の方の支援方法等について助言をしている。 ホーム長に伊達市内の女性部からの依頼があり11/21に講和会にて認知症をテーマとする講和を行いました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ご家族代表や各委員の方々へホームの写真付き行事報告や書面での状況提供を行うとともにご意見やご提案を伺いながらサービス向上にいかしている。ユニット内には誰もが確認できるよう運営推進会議事録も玄関前の壁に備え付けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には必要に応じて空室及び待機状況のお知らせや相談報告を行っており運営推進会議にも参加してもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わないケアを実践している。入居者の不穏状態が強い場合には離脱の危険性と保護の観点からユニットの出入り口を日中に一定期間施錠する場合もあったが現在は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを備え、各自、内容を把握し普段の声掛けや介護方法に注意し職員間での声掛けを密に行い互いに注意出来る関係を維持している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用の方はいないが必要性に応じて各関係者と話し合い活用できるように支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が面談にて家族(利用者の同席の場合もある)書類を提示し口頭で説明しており疑問点や不明点等もお聞きした上で理解と納得してもらえるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の業務から入居者に意見や要望をお聞きしている。家族の来所時に生活記録の開示を行うとともに書面にて同意を頂き意見や要望をお聞きし朝夕の申し送り話し合い反映できるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や概ね2ヶ月に1回の両ユニット合同会議がありその際に運営や行事内容等を話し合い職員の意見や提案を聞くように努めている。スタッフは各係りを設けて反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の大半はパート職員のため本人の希望にそえるよう勤務形態の配慮や有給休暇の取得や昇給や賞与や燃料手当の支給等で労働環境を整えとともに働きやすい職場環境を目指している。代表者(執務代行者)は職員の努力や勤務実績を把握している。小規模事業所で限られた職員数のため職員が体調不良等の急なお休みの場合には他職員に勤務交代や残業をお願いすることもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成27年度は認知症ケアや普通救命講習Ⅰの研修会に参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者が伊達市介護支援専門員連絡会に所属し定例会に参加することもある。平成27年7月23日の認知症ケア研修会ではグループ討議で他事業所職員と交流する機会がありました。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人にホームへ見学してもらい(入院入所中の場合はその現地に赴き)本人のご意向を聴取し信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族等にはホームに見学に来てもらいご意向を確認し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人と家族から状況確認を行いグループホームの入居の必要性を見極め即入居できない場合には他の施設や病院等の利用を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が入居者に料理や畑作業等について教わり指導をして頂く時もありその際には一緒に作業している。入居者と職員が掃除等を一緒に行うこともある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活記録の開示や面会時には近況をお伝えし家族と情報を共有している。平成27年9月には桜香祭りを開催し入居者ご家族スタッフ全員で楽しんだ。入居者が家族に電話をしたいとの訴えある際には家族の協力を得ている。受診の際には院内で家族も一緒に同行することもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の自宅生活で行きつけであった美容室や理容室に職員や家族と一緒に連れ出すことがある。家族以外にも友人等が気軽に面会に来られる雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで入居者同士が談話できるように支援している。入居者の一人ひとりの性格や感情の変化等を把握しリビングの席替え、手伝い事、余暇活動等を工夫している。トラブルや口論になる前に職員が気付いてあげるよう仲介に入っている、入居者同士が自然な形でいたわり合う姿も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院でサービス利用が終了した際には入院先の面会やお見舞いを実施し相談も受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の入居者との会話表情行動などから意向や思いを把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談等の情報収集や入居後何気ない会話からも情報収集が多く職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族、以前利用していたサービス事業所や病院などから情報提供して頂き生活記録、バイタルチェック表、日誌等を通し現状把握を行うとともに小さな動作や言動から全体像の把握に努め、微少でも自立に向けた支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活記録、家族との情報共有、月1回の担当者会議等で現在の入居者にとって何が大切かを話し合い、意見等を反映し現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には本人の発言内容や行動の様子や身体的及び精神的不安な様子が伝わるような記入に努めている。毎日の生活記録をもとにアセスメント、モニタリング、担当者会議で職員と情報交換し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の要望に対しては可能な限り柔軟な対応をしている(専門医への定期受診、家族の同行受診、個々の外出願望時の対応、個々の菓子やオムツ類や生活用品の購入など)。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年1回の桜香祭りでは地域の方の交流も見られる。近隣のスーパー又は外気にあたり運動を兼ねて公園の散歩や地域の神社祭の出店に出かける。ボランティアとしてサンタの会様に来所頂き歌と演奏をして頂いた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が入居前から通院されていたかかりつけ病院へ入居後も継続通院されている。家族等の納得が得られた場合には母体病院の訪問診療や往診に切り替えた人もいる。入居者の健康状態に応じて他科への受診通院支援も行っている。また、家族とともに職員が診察時に同席をすることもあり医療機関との連携を図っている(診察時には医師へ情報提供を行っている)。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院の看護師が週2回(週1回の時も稀にある)来訪されるので連絡ノートや口頭にて入居者の状況を伝達や連絡や相談を随時行っており入居者の体調不良等では適切に病院へ受診できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはホームから病院へ書面にて情報提供をするようにしている。入院時には病院への本人面会や病院看護師等からの状況確認及び病院連携室と情報交換し退院の見通し等を働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	同意書(重度化した場合の対応指針)を入居前契約時に説明し同意を得ている。 平成27年7月に本人の病状悪化が見られた方おり、最善な援助につながるよう家族や主治医や訪問看護師や職員等でカンファレンスを行い今後の方針を確認しました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成27年度は全職員を対象として西いぶり消防組合の普通救命講習Ⅰに参加してきている。 1名分は利用者の急変を想定し主治医指示のマニュアルを作成して発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成27年6月に消防署員の立会いの下で火災避難訓練を実施しました。平成27年8月と11月には自主火災避難訓練を実施しました。 火災時には自治会の方に入居者の安全確保を行って頂ける体制をお願いしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し自尊心を傷つけないような声かけ対応を忘れず一人ひとりに合った家族としての声かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者の話を傾聴することで本人自ら思いを表明できたり自己決定できるように支援している。表情や仕草から思いをくみ取り自己決定に近づけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	できる限り入居者の希望を優先し柔軟な対応を心掛けている。職員の人数が少ない時には対応できない場合もあるが最低でも1日1回は笑顔が見られるように努力している。。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には訪問理容が月1回来訪されるので定期的に散髪してもらっている。希望者には美容室に職員が同行も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて調理や盛り付けや片付けをお手伝い頂いている。昼食時には毎回職員と入居者が同じテーブルで食事をしている。外食に出かけたり、ラーメン等の出前を取ることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量と水分量の摂取量を記録している。失行の方には食事時に本人の横に座り助言を行っている。母体病院の管理栄養士にほぼ毎月献立表を提出し栄養量等の助言をもらっている。個々に応じて刻み食や軟らか食で対応。曜日により献立が決まっている時もある(パンの日、麺の日、カレーライスの日)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアの(義歯洗浄も含めて)声掛け又は介助を行っている。夜間は義歯の洗浄液のつけおけをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し適宜トイレ誘導や声かけを行っている。尿便失禁が多い方もトイレへ誘導し自然排泄ができるように支援している。歩行不安定な方には夜間用として居室にポータブルトイレを設置している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時は1日置きにヨーグルトの提供、10時には毎日牛乳や乳製品の提供、毎日の体操実施で予防に努めている。医師の処方でも下剤を使用している方もいる。排便確認表にて排便状態や性状の把握をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週間プログラムとして入居者には週2回曜日を一応決めているが随時タイミングを見極めて柔軟に曜日時間帯を変更している。夕方に入浴したいとの希望者には夕方に入浴してもらっている。入浴を拒否される方には随時入浴の声掛けを行い入浴実施に向けて支援している。入浴拒否が続いている時は全身清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調面を観察し適宜休息できるように支援している。リビングにて傾眠されている時には声掛けをさせて頂き必要であればベッド上で臥床して頂いている。毎食後に居室での臥床や休息の声かけを行うことで休息できていることが多い。室温にも留意し各居室の暖房の調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のケース記録に処方薬の説明書をはさめている。投薬内容が変更になった場合には連絡ノートや申し送り等で伝達し情報共有している。薬はホームで管理させて頂きその都度本人に配薬し服用支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの能力に合わせて役割をもって頂けるようにしている(洗濯物たたみ、調理等)。興味がある方にはパズル等の手作業にも参加してもらっているし興味のある事項を探るようにしている。季節の行事を大切に提供しており外食ドライブ散歩等で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望によって戸外に出て周辺の散歩を行っています。適宜ドライブにもお誘いし郊外にも出かけています。病院受診の帰りに飲食店に立ち寄り外食してくることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の日用品の購入ではホームでの立替をしている。お金を所持している入居者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族へ電話したいとの訴えがあった場合に職員が電話を掛けて本人に家族と話しをしてもらっている。本人の依頼により返信のため葉書の代筆をしたことがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節行事の飾り付けや壁面スペースの装飾により季節を感じて頂けるように努力している。その季節に応じてクリスマス風の装飾や雑壇を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広さがあり隅に設置してあるソファーには個人の居場所を確保している。入居者の相性にも配慮し座席を配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていた愛着のある家具等を持って来てもらい自宅にいるような感覚で落ち着いて過ごしてもらえるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前のコルクボードには入居者の名前や縁のある物を掲示し本人にわかりやすい環境作りをしている。浴室内の手すりは色分けし視覚的に理解しやすくしている。入廊下の手すりを使用して屈伸運動を行う姿も見られている。		